

第 1 0 回 富 山 地 区 学 校 再 編 検 討 委 員 会 次 第

日時 平成 2 2 年 3 月 2 5 日 午後 7 時

場所 富山公民館 多目的ホール

1. 開会

2. あいさつ

3. 報告

4. 議事

(1) 第 2 回地区説明会意見の検討について

(2) 平群小学校・幼稚園の存続を求める意見書について

(3) 保護者意見について

(4) 平成 2 2 年度富山地区学校再編の推進について

5. 閉会

第10回富山地区学校再編検討委員会 会議録

平成22年3月25日（木）午後7時

富山公民館 多目的ホール

記録者 満平 恒一

欠席委員 佐藤委員、小澤委員、加藤委員

1. 開会

2. あいさつ

委員長

教育長

3. 報告

事務局

4点ご報告したい。1点目は、12月17日に地区説明会を富山コミュニティーセンターで行った。詳細については議案の第1号で協議されることになっているが、当日40名近くの方が出席し岩井小、平群小の再編についてご意見をいただいたが、第2回説明会においては合意形成にいたることはできなかった。

2点目は、2月2日、2月4日保護者の統合についての意見交換会が開催された。2月2日の岩井小の説明会では参加人数は少なかったけれど統合についてご理解いただいた。2月4日に行われた平群地区の保護者の意見交換会ではいろいろと意見が出されたところだが、引き続き検討していくことになった。

3点目は、3月4日、PTAの方々が独自に意見交換会を開催され、保護者の意見集約を行われた。このことについては議案の3番目のところでご意見をいただけたらと考える。

4点目は、3月2日、平群小の存続を求める署名が市長宛て提出された。これらについては資料にも添付してありますが、平群地区の方々の署名が集められた。会議資料14ページ、15ページをご覧いただきたい。現在教育委員会において署名の中身を精査しているところですが、有権者数1594名中1071名の署名が集まったということで、考慮すべきと思われ、地域の意見としてこの検討委員会で検討することとし、2番目の議題と合わせてご検討いただきたい。以上です。

4. 議事

事務局

議事進行は設置要綱第7条の規定により、委員長に議長をお願いします。

本日傍聴の申し出がありましたが、傍聴希望の方に入っていただいてよろしいか。

委員長

傍聴人の入室を許可します。

委員長 本日の出席者数は16名で過半数に達していますので会議は成立します。
会議に入ります。議案第1号、第2回地区説明会意見の検討について事務局より説明をお願いします。

事務局 議案1についてご説明申し上げます。資料2ページ、3ページについてですが、地区説明会の概要を確認するために掲載しました。第2回の地区説明会の課題の概要について説明します。資料4ページをご覧ください。第2回の地区説明会におきましては、大きく分類して5項目の意見がだされたところがございます。1番目は、伝統ある小学校を経費がかかるから統合すべきではないという意見がございました。2番目は、少人数指導が叫ばれている中、なぜ30人以上のクラス編成にするような統合をするのか。3番目は、学校再編はデメリットの方が大きいと考えられ、通学距離も長くなり不安であるという意見が出されました。4番目は、学校再編はやむをえないと考えるので、市内の小学校の建設年度が知りたいという意見がありました。5番目は、幼稚園、小学校、中学校を同じ敷地内に設置できないのかという意見が出されました。
これらの意見につきまして順次協議をお願いします。

委員長 1番目に関して、岩井小、平群小の施設等の費用はどのくらいかかるのか。

事務局 21年度予算額で申し上げますと、岩井小学校建物そのものの施設管理費は概ね514万円程度となっています。平群小の施設管理費は448万円程度というところがございます。今後想定される経費として補足しますと、通学支援のスクールバスの運行経費ですが車両代をのぞくと420万円程度かかるものと考えております。1台あたりの経費がこのようにかかり、学校再編は、単に経費削減のみを目的としたものではなく、子どもたちの教育環境の向上、改善を目的とし実施されるものと私達は考えています。

委員長 施設経費につきましては今の説明の通りでございますが、建物としては両小学校とも40年以上経過しており、岩井小学校校舎については、耐力度検査の結果を待っているところです。調査の結果を検討委員会に報告いただきたいと思いますと考えています。伝統ある平群小がなくなることはさみしいが、子ども達の将来を考えるとやむをえないことかなと思います。それでは委員の皆様の意見を伺いたいと思います。

委員 子ども達の学習環境を考えてのことで、単なる予算ことだけでなくありがたかった。

委員 経費がかかるからといって統合を考えてのことでなく、子ども達をいかに育てていくかを重要と考えていかなければならないと思います。

委員長 次に2番目の、少人数指導が叫ばれている中、なぜ再編を進めるのかについて事務局より説明をお願いします。

事務局 少人数指導のメリットにつきましては広く全国的に理解されているものと考えております。繰り返し学習する算数や理科など進度によって差がしやすい教科については少人数によってきめ細かな指導が行われ有効性が理解されているところです。最初

から少人数だと、多人数で学習するといった機会が得がたい。一定規模以上の集団をつくって、その中で少人数指導を行っていく手法を検討したい。

一定規模の集団になれば、さまざまな授業スタイルや、多くの先生から指導が受けられるプラスの面が期待できる。少人数指導の導入により、統合しても平群小のような教育が可能だと考える。これが、極端な少人数だけだと、切磋琢磨する機会が少なくなり、沢山の仲間や先生と触れ合う機会がなかったり、合唱など大きなコーラス編成ができなかったり、体育などでは正式ルールではなくローカルルールになってしまうことが懸念されることです。

繰り返しになるが、一定規模の集団をつくって、小集団化を考えていくのが最も効果的ではないかと考えます。このような観点から岩井小、平群小の統合を提案させていただきます。

委員長 一定規模の人数の方がいろいろな人と触れ合い多様な考え方を身につけられるようになり、また、その方が自然ではないでしょうか。何か他に意見はないでしょうか。

委員 少人数だと遊びにも限りがある、遊びによって輪が広がっていく。遊びに応じ、変化に富むある程度人数がいた方が得るものも大きいのではないかと思います。人間形成の面でもメリットがある。

委員 統合すると40人近い学年も想定され、その点を心配する保護者の方もいる。40人だと少し多すぎる。2クラスに分けることができないでしょうか。

事務局 加配教員等の活用ができれば可能であると考えます。

委員 平群小の保護者は、複式は避けたいという考えが多い。そういう意見を尊重したい。新1年生については、岩井小学区から3人平群に行き、複式は解消されると思いますが。

委員 複式が解消されても平群小学校の人数は少ないと思う。少人数にもメリットがあるというのはわかったが、知識がついても多様な考えかたができないといけない。自分の力をどのように使っていくか多人数の中で養われていくと思う。切磋琢磨していく必要がある。

委員 自分の経験ですが複式を経験した。全員選手がいやだったこともある。大会などに行っても圧倒されてしまったことがあった。大人数に対してうらやましいことがあった。

委員長 3番目の意見、デメリットや、再編に伴う通学支援についてお願いします。

事務局 通学支援についての考えかたであるが、現在、岩井小学校、平群小学校の子ども達にはスクールバスでの通学支援は行っておりません。富山地区では幼稚園の子ども達と平群地区の中学生に対してスクールバスの運行による通園・通学支援を行っています。デメリットとして、平群小学校に通う子ども達には、片道4キロメートルを1時間以上の時間をかけて通っている子もいます。その子の場合、統合すると12キロメートル以上の距離になります。

しかし、そういった場合は、当然スクールバスの運行を考えていきたいと思っています。メリットとしては登校、下校の安全の確保につながると考えます。不安として発車時間に帰らなければならないとありますが、子ども達の授業や行事のスケジュールに合った、帰るのに相応しい運行を考えていきます。体操や音楽練習等のスケジュールに合わせた運行により不具合は解消されていくと思われ、また、天候の悪い時などは、保護者の方の送迎が軽減されるなど副次的な効果も期待されます。

委員長 4番目の各学校の建設年度などについてお願いします。

事務局 建設年度ですが、岩井小学校、昭和38年に建設され今年で47年目になる。また、丸小学校も昭和38年に建設され47年に入っている。40年以上の学校は平群小学校で、昭和43年、40年目になります。南小も昭和44年建設で、来年40年目になる。40年を越えている学校は4校。新しいところでは平成になってからがあり市内ではかなりバラツキがある。

委員長 建築後の年数が地番経過している岩井小は、検討委員会としても最優先で校舎改築を要望してきている。

委員 安全、安心を確保できることが一番。避難所になりうる安全性の担保が一番だが、現状はかなり老朽化しているようなので、一年でも早く改築を要望したい。

委員 再編と同時に校舎改築を一緒に考えていただきたい。どこに校舎を建てるか平群小の保護者の方と考えていきたい。

委員長 5番目の意見と関連するが、幼稚園、小学校の再編を考慮して中学校と同じ敷地内に設置できないものか。

事務局 同じ敷地内で幼稚園から中学校まで設置すると、年齢の幅が広いため学習内容や生活スタイルなどが全く違ってくる。そのため、一つの敷地内にまとめるには、機能面を考慮した配置をつくっていく必要がある。幼稚園だと、園児が安心して遊べるような園庭や遊戯室が必要であり、小学生では中学生とは体格も違うため、安心して活動できるスペースが必要です。それらを考慮した運動場や体育館が必要となり、また小学校にはプールが必須になる。

中学生になると体格も大きくなり、運動量も多くなる。部活動も盛んになるので中学校専用の運動スペースが必要になると考えられます。これらを一つの敷地にまとめるには、かなりの面積が必要になると考えています。このようなことを踏まえるとコンパクトにするのは難しくなります。無理に入れば効率が悪く、学校の先生方の負担が大きくなる。なかなか大変になるので、現在の富山中では非常に難しい配置と思われれます。

委員長 各学校の面積の敷地についてどうでしょうか。

事務局 おおまかな数字ですが、共用部分を差し引いても、小学校で10,000㎡、中学校では倍の面積の敷地が必要になる。これを一つの場所にまとめると30,000㎡

の面積が必要となります。岩井小は12,000㎡、平群小は11,000㎡、中学校は21,000㎡で、一番広い中学校を使っても、あと10,000㎡程度の面積が必要になります。十分な余裕のある配置は難しいと考えている。

委員長 今説明がありましたが委員の皆様の意見をお願いします。

委員 PTAの代表で出てきているが、会員の方に検討会の内容が十分伝えられなかったものでこのような意見が出てきている。

委員 小中一貫校は考えていないが地域に学校を残すため幼・小・中学校を一か所にまとめることができないか考えている。できるだけお金をかけないであと3分の一程度の土地が確保できないか希望をもっている。

委員 小中一貫にすると、そこに壁があるわけではない。そうすると、いいことも沢山あるだろうが、中学生が小学生に変なことを教えたりする不安もある。いい面がでてくればよいが悪い面もでてくるのではないかと思う。

委員 小中一貫はいいことばかり言われているが、中学校のマイナス面が小学校に降りてくることが考えられる。岩井小だけのことを考えても難しいと思う。

委員 小中一貫を考えると、中学校の問題まで考えていかなければならなくなる。少しずつ足固めをしていく必要がある。まずは小学校の統合だけを考えて方がよい。

委員 小中一貫を固執するのではなく、この地域に学校がなくなってしまうことを心配した。一貫校を提案しているのではなく、地域から将来中学校もなくなってしまうのではないかという思いからです。

教育長 私の私見から述べさせていただきますと、一貫校はあまり賛成ではないと思っている。なぜかという点幼稚園、小学校、中学校の発達段階を考えてそう思った。人間の成長は竹の節目のようにくぎりが必要。目標、反省の繰り返しで成長していく。発達段階から考えて、幼児期から少年期へ心を成長させ、自信を持たせ自立をさせる。施設のスペースを考えると、狭ければ順番待ちのようなことが出てくる。幼稚園・小学校・中学校で一貫教育を行うために、先生方の会議の数が増えてきて、余裕ある授業展開を行うためには負担になる。一貫を進めるについても、カリキュラムの整合性の研究はよいとおもうが、それは同じ敷地内でなくてもできる。先程でしたが一度悪くなったら、永久に悪い風習がなくなる。中学3年生が卒業したからといってなくなる。幼児用の遊具で運動場のスペースをとってしまうことも想定される。幼・小・中学校では子どもたちの運動量が全く違うので危険が大きい。野球ボールが飛んできたり、バスケットボールが飛んでくるか分からない。お兄さんが小さい子どもの面倒をみることもあるが、そんなに多くない。発達段階を考えると、節目、節目があった方がよいと私は考える。

副委員長 最初は私も一貫校を考えたが、いろいろな事情を考えて考えが変わった。

委員 統合のこと地域のことに一緒にやっていったほうが、不利益が少ないと思う。

委員長 平群地区で幼稚園・小学校の存続を求める署名出ていますが、その意見書について事務局説明してください。

事務局 お手元の資料6ページから9ページに委員長宛の存続を求める意見書があります。意見書の概要を説明させていただきご意見を頂戴したいと思います。6ページでは署名運動の成果と、平群小学校のおかれている現状について書かれている。すべての施設をなくしていいのか熱い思いがかたられている。続いて少人数教育の必要生や岩井小学校へいくマイナス面については第2回地区説明会と存続を求める会の方との意見に近いところがあります。

検討委員会では、統合のマイナス面より、統合のメリットの方が大きいと確認されたところです。統合に際して課題があるが一つ一つ解決策を見出だしていくことは可能ではないかと思えます。スクールバスの問題や地域の学習の問題など学校や地域の人達で協議することで可能と考えます。

再編計画策定のための検討委員会のメンバーについては7ページ、8ページに記載。5回の会議で市の再編計画書の作成を行っている。11月から1月までの3ヶ月で策定を行った。市民の意見が十分集約されていないという意見がありますが、パブリックコメントの実施や15名の委員さんなど市民の皆様に入っていた点において十分な意見集約がなされたと考えます。メリット、デメリットについても必要な協議はされたと考えます。統合ありきと言う考えかたでは、けっしてないと考えています。

次に地区検討委員会についてですが、構成委員である行政連絡員代表の方や、PTAの役員の方々には年度の切り替え時点で継続性について不安があるのではないかという意見がありますが、引継ぎが十分なされていると考えていますし、継続性の面や委員さんの見識の高さから考えても十分問題ないと考えています。

9ページでは求める方々の最も重要な記事が記載されていますが再度地域の方々に意見を求めていくことが重要ではないかと事務局としては考えまして委員の皆様にも再度お諮りしたいと考えます。

委員長 議題の3番目でございますが、保護者の意見といくことでPTAの方にご意見を伺いたいと思います。岩井小の方からお願いします。

委員 小学校がなくなるのはさみしいが、子どものことを第1に考えると、合併をした方がいいのかなと考えます。確かにさみしいことですが、それだけではいけない。人数の多い中で遊ばせたい。平群が岩井へ、岩井が平群へという問題ではない23年度、合併の話でているが、早く合併をお願いした。

委員 平群小学校では教育委員会の方々を招き2月4日に説明会を開きました。この時は意見の集約は行いませんでした。3月4日に保護者だけで意見交換会を行った。出席者全員ではなかったので3月中旬、全保護者を対象にアンケートをとりました。現在の少人数の学習環境を何らかの形で改善して欲しいという意見が多かった。現在の

少人数で学習がすすむことに対して不安をもっている親御さんは多かった。多人数の中で今の少ない人数の子ども達がうまくやっていけるのか心配な面があるが、先生方の努力や関係者の努力で解消されるのではないかと思います。岩井小の場であっても、平群地区の地域の方々との交流、地域の学習をお願いしたい旨のことを多くの保護者が望んでいる。

委員 保護者の意見交換会で大多数合併賛成の意見であった。これから解消していかねなければならないことは沢山ある。

委員長 議題4番目の平成22年度、学校再編のスケジュールについて提案をお願いします。

事務局 お手元A3の資料を御覧ください。

学校再編の推進スケジュールですが、現状から来年度への状況ということでご覧ください。11月から12月にかけて地区説明会を開催すると共に、保護者の意見の集約おこなっていただきました。3月になりまして、存続を求める会から下繰り小学校の存続について署名が提出されました。署名についても重くうけとめているところでございます。学校再編の考え方としましては地域の方々の意見を聞くことを第1に考えておりますので、慎重に対応したいと考えます。これについては検討委員会方でも同じ意見をいただいております。今後は平成22年度も引き続き推進を図っていき、地域の方々のご理解を得たいと考えています。次回の会議につきましては、新しい委員さんの中で再度検討していきたいと思っております。

来年度は、学校の校歌や校章付随するカリキュラム、通学支援やPTA組織、子ども達の交流の在り方などを同時進行的に考えて、地域の方々に説明の裏付けや資料作成を図っていくよう考えております。

一回目の会議の中で課題を整理し、地域の方々に周知を図っていき、平成22年度推進を図っていきたいと思っております。委員の方からご指摘があったように、地域の方や保護者の方に説明が届いていないことは事務局としても反省するところが多く、検討委員会で話合われたことについて地域の方々に周知を図るべき、手立てを考えていきたい。

委員長 今のこのことに対して質問、意見はございませんか。

ないようですので、以上をもちまして第10回の検討委員会の会議を終了いたします。

事務局 以上をもちまして議事を終了いたします。